

# 原発のない福島を！ 「県民大集会」 7000名結集！



3月23日、福島市のあづま総合体育館において「原発のない福島を！県民大集会」が開催され、県内外から7,000名が結集しました。福島県支部の春闘の闘いの取組みとして、「原発の廃炉」「安心して暮らせる福島」実現させるため、家族を含め62名の仲間が参加しました。原発事故が引き起こした大規模な被害はいつ収束するか分からない深刻な状況です。低線量被爆への不安、政府の指示で避難した人、自主的に避難した人は16万人。2年に及ぶ避難生活は精神的、肉体的に限界に達しています。今集会のアトラクションでは、霊山太鼓（伊達市）下柴彼岸獅子（喜多方市）大谷じゃんがら念仏踊り（楡葉町）また、なみえ焼きそばをはじめ多くの出店があり、震災、原発事故写真パネルの展示コーナーでは、原発事故を絶対に風化させないと言う強い意志を感じました。

## 県民からの訴え

●篠木弘さん（JA双葉代表理事）

このあづま体育館は避難所で世話になった。JA双葉は20km圏内は立入ができない。営農、畜産が出来ない。牛、豚達が残酷にも取残され見捨てられた。原発が終息したとは思わない。除染にしても被害者がやらなければならぬ。本当に苦しい。田畑、山林を守り近隣生活を大切にしたい。先人が築いてきた営みが全て失った。事実を訴えて今後を考えてゆきたい。原発10基の廃炉。しかし、東電は無視している。長い闘いが続く皆さんに協力をお願いし頑張りたい。

●佐藤弘行さん（相馬双葉漁業共同組合理事）

2年が過ぎガレキを片付けてきた。妻と家を津波で失った。途方に暮れた。漁師は海に出る仕事。明日の活力になる。しかし、海は放射能で汚染され漁が出来ない。モニタリング試験漁でタコなど3種類。11月には12種類に拡大になった。魚採っても共犯と思つたことがある。58歳になり体力的に劣つたが息子が後を継いでくれた。今後、風評の不安がある。しかし、漁師は原発に負けない。市場で母ちゃんたちが魚を並べているのを夢見て操業している。原発はいらぬ。賠償に惑わされることある。しかし、負けない。海を取り戻すため何でもやってゆく。強く決意する。

普通でないことが、当たり前になっている。風化させない！

●高野桜さん（高校生平和大使）

小高区20km圏内。家族は山形に避難。家族がバラバラになった。昨年2月に一時帰宅。片付けや周りの写真を撮影。帰りたい気持ちになった。しかし、中間貯蔵施設見たいのがある。インフラも整備されず、家の除染もできない。ネズミの糞、猫やハクビシンが住み着いており雨漏れ後にカビが発生。室内も雨漏れがあり放射線量も高い。帰れないと感じた。高校生活は1年は小高工、2年はサテライト、3年は仮設校舎。教室は間仕切りで仕切り。音楽は体育館。友達もバラバラで卒業になった。昨年8月に平和大使でスイスジュネーブに行ってきた。海外では情報が行きとどいていない。ブラジルでは、政府に関する質問、支援は有るのか。など真剣に受け止めていた。被ばく者の人達は全世界に伝えるべき。反対署名も取組んでいた。長崎は60年過ぎると戻れると言われた。福島の放射能は200倍飛んでいる。伝えていくことの大切さを学んだ。普通でないことが、当たり前になっていく。高校生活はバラバラにされた。おかしなことを、風化させないことが大切。

●鈴木邦彦さん（県森林連合会）

住宅などの除染が始まっているが森林は除染方法など明確になっておらず手付かず。森林からの汚染水が下流に流入し河川流域の汚染が高まっている。山林の除染が早急に必要。山で働いていた多くの労働者の仕事に奪われた。私達は、東電に騙されていたこと。無関心だった姿勢が問われている。今、一人ひとりが考えてほしい。私達は変えることが出来る。

●菅野豊さん（県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長）

組合に630軒が加入。震災原発事故後68万人がキャンセルになった。これからの不安、しかし、県民211万の被災者を受け入れお役に立てた。その後、5月に原発事故による損害賠償を東電に求めた。現在は、八重の桜効果もあり80%まで回復しているが、風評被害、修繕、人出不足もあり運営が厳しい状況が続いている。原発の恐ろしさ、10基の存在を改めて知った。全国に福島の元気を発信している。共に頑張ろう。

●大越たか子さん（県外避難者）

宇都宮に避難。2、3週間で戻れると思っていた。今は、いわきに避難。自宅は、ネズミ、カビに占領されてしまつて無念さを感じる。

原発、人の力で制御出来ないものは造るべきではない。ボランティア活動などで人に触れ、花に触れ安らぎを感じるようになった。人生の1年1年を大切に生きてゆきたい。

●平井華子さん（福島の子ども保護プロジェクト）

2歳、4歳の子供と放射線と向かい毎日過ごしている。放射線の恐怖、チェーンメールで振り回された。子供を押さえつけイソジンを含ませた人もいる。幼稚園は食材は県外産、運動は屋内、でも子供達は毎日楽しく通園している。しかし、将来がとて不安になる。戻つたように見えるが改善していない。住宅の除染が遅れている。親の交流により情報を好感している。子供たちに当たり前のことをやらせてあげたい。



●お知らせ（退職）

3月31日付 佐々木勝紀（福島地区分会）（出向・ジエイテック福島）JRエルダー）